【NICU 部門におけるサーベイランスの目的】

NICU 部門における院内感染症（敗血症・肺炎・髄膜炎・腸炎・皮膚炎・その他）とその起炎菌（MRSA・MSSA・CNS・緑膿菌・GNR・カンジダ・その他）に関して経年的に調査を行い、出生体重別・感染症別・起炎菌別の感染症発症状況を評価し、各施設には全国集計の平均値と比較したデータを返却し、院内感染発症の原因を探る一助とする。

【解説】

全国の NICU 保有の 44 施設から 2007 年 7 月～12 月の各 NICU における感染症データが送付され、解析した。総入院数は 5678 名で、感染症発症者は 346 名（6.1%）であった。その内訳として出生体重別の入院数は超低出生体重児（～999ｇ）335 名、1000～1499ｇ児 456 名、1500ｇ以上の児 4887 名で、感染症発症頻度は順に 33.1%、7.9%、4.1%であった。やはり 1000ｇ未満の超低出生体重児が人工換気療法や中心静脈栄養などの濃厚な治療を受ける期間が長いために感染率が高い。なおこの調査の対象となった超低出生体重児や 1500ｇ未満児の入院数は日本全国の出生数の約 5 分の 1 に相当している。

起炎菌別には MRSA が従来どおり高く 23%を占め、次いで MSSA8%、CNS5%、緑膿菌 5%、カンジダ 4%、その他の菌 27%で菌不明が 28%であった。

感染症別では肺炎 25%、敗血症 16%、皮膚炎 10%、腸炎 5%、髄膜炎 3%、その他が 41%であった。

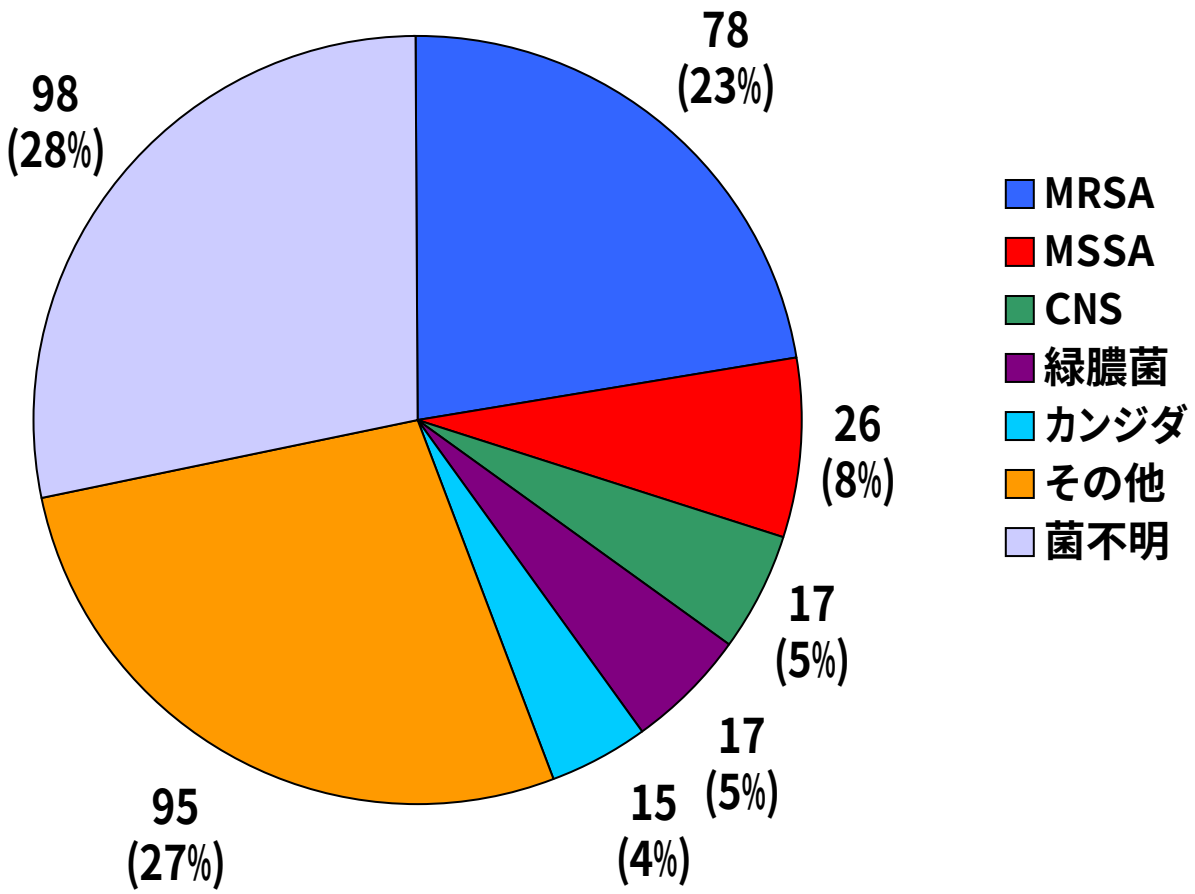
2007年 年報

表1 体重別入院患児数・感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症患児数	感染症発生率
～999g	335	111	33.1%
1,000g～1,499g	456	36	7.9%
1,500g～	4887	199	4.1%
合計	**5678**	**346**	**6.1%**

2007年 年報

図1 菌種別感染症発症患児数 （N＝346）



2007年 年報

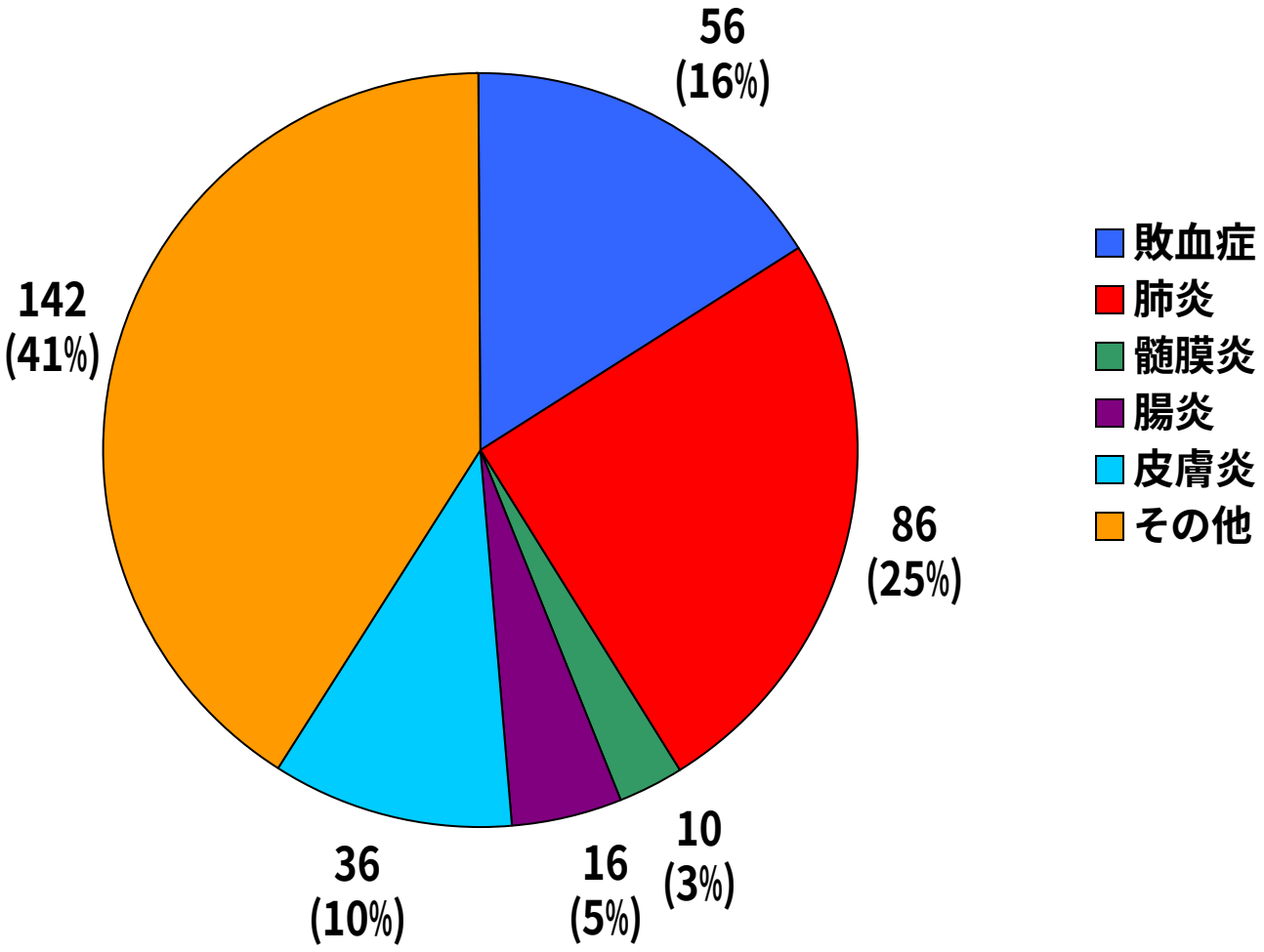



図2 感染症分類別感染症発症患児数 （N＝346）